

向こう岸に渡ろう

岩河敏宏

聖書：マルコによる福音書4章35節

35 その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。

イエスは弟子たちに「向こう岸に渡ろう」と呼びかけ、弟子たちはイエスに従い小舟に乗り込みますが、間もなく激しい突風に遭います。弟子たちは眠っているイエスに「先生わたしたちがおぼれても（滅びても）かまわないのですか」と詰め寄ります。ここから、小舟の中で弟子たちは突風と共に、命を脅かされるような恐怖に襲われました。イエスは風を叱り嵐を静め、さらに弟子たちに「まだ信じないのか」と問いかけます。最後に弟子たちは、「いったい、この方はどなただろう」と言います。

この展開は分かりやすく、イエスの言葉の力強さと弟子たちの狼狽する姿は、当時だけ

でなく、後世の教会にも強い印象を与えたと思われまふ。湖を渡る小舟は、この世を渡る教会のシンボルとし、この世の荒波の中で、あの弟子と同じ様に、私たちが慌てふためきます。私たちの信仰（神への信頼）も、実に頼りないものです。しかし、主イエスが共におられるので、小舟（教会）は転覆することなく向こう岸へと向かいます。現在の位置に留まろうとする私たちに、向こう岸に渡ろうと新しい挑戦を促すのはイエスです。主導権はイエスにあり、ある面で私たちはじたばたする必要はありません。恐れや不安は確かに避け難く訪れるでしょう。しかし、イエスは小舟に同伴し、私たちには困難な風や波をも制して下さり、恐れや不安を共に分かち合う責任を負って下さいます。

弱く不十分な私たちを用いられるイエスに信頼し、向こう岸を見すえて歩み出そうではありませんか。